

# 令和3年度

## 全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

### ～全体的な傾向～

令和3年5月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語が全国・全道平均を大きく下回り、算数では全国平均を若干下回りましたが全道平均と同率でした。中学校では全教科において全国・全道平均を上回り、特に数学においては、全道平均を大きく上回りました。

学習状況調査における児童生徒質問紙で、小学校においては、規範意識、生活習慣や学習習慣が定着し、国語への関心やICT機器の活用について高い傾向が見られる一方、算数への関心について低い回答傾向が見られました。また、中学校においては、自己有用感や生活・学習習慣が定着している一方、数学への関心やICT機器の活用、関心について低い回答傾向が見られました。

小学校、中学校ともに新型コロナウイルス感染症にかかる休校期間中は、規則的な生活、計画的な学習に取り組むことができたとの回答が多く見られました。

清水町では”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が絡ぐるみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取り組みを意欲的に充実していくことが大切です。

### 学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題について調査したものです

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

**主として「知識」に関する問題**・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できる等になっていることが望ましい知識・技能など

**主として「活用」に関する問題**・・・知識や技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査

### 【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【調査対象】

○小学校6年生、中学校3年生（清水町は全小・中学校全4校で実施）

### 【実施日】 令和3年5月27日（木）

### 【調査事項及び手法】

○教科に関する調査 国語、算数・数学の2教科

○質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 小学校 6 年生 調査結果概要

### 教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語・算数において、全国平均を下回りました。

#### ◆小学校 6 年生調査問題の趣旨・内容

##### □国語

- 目的や意図に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチ構成を考えたり、自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考え、伝わる書き出しを工夫する問題など
- 資料を用いた文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握したり、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題など

##### □算数

- 図形の性質や構成要素に着目して、図形の構成の仕方を捉えて、道筋を立てて説明することができるかどうかをみる問題など
- 日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見だし、数学的に表現・処理して判断することができるかどうかをみる問題など

##### ○町内小学校 6 年生の学力の傾向

国語において、全国・全道を下回る平均正答率であり、課題が見られます。  
算数において、全国平均を下回っており、課題が見られます。

##### ○課題と対応

国語について、文章の構成を捉え、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように全体の構成や展開を考えることについて課題があり、特に書くことにおいては、全国・全道の平均正答率より低い傾向にあります。

算数については、面積の求め方の理解や図形の構成の仕方を捉えて答えを記述することについて全国・全道の平均正答率より低い傾向にあります。

今後も、家庭で保護者とともに読書をしたり、自分の考えを整理して伝え、そのことに対する質問を考えたり、聞き合ったりするなど、日常から実践していくことが大切です。

## 中学校 3 年生 調査結果概要

### 教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語・数学において、全国平均を上回りました。

#### ◆中学校 3 学年調査問題の趣旨・内容

##### □国語

- 話合いの話題や方向を捉えて話す内容を考えたり、質問の意図を捉えることができるかどうかをみる問題など
- 意見文を読み返し、語句や文の使い方、段落の関係に注意して書くことができるか。また、書いた文章を読み合い、文章の構成の工夫をすることができるかをみる問題など

##### □数学

- 具体的な場面で一元一次方程式を作ることができるか。また、問題場面における考察の対象を明確に捉え、目的に応じて式を変形したり、意味を読み取ったり、事柄が成り立つ理由を説明できるかどうかをみる問題など
- 与えられたグラフや表から必要な情報を適切に読み取ることができるか。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題など

##### ○町内中学校 3 年生の学力の傾向

国語、数学の教科において、全国を上回る平均正答率であり、基礎的・基本的な知識・技能に加え、基礎・基本を活用することについても、一定程度に身につけていると言えます。

##### ○課題と対応

国語において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを持つことに、数学において、データの傾向を捉え数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。

今後も、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を家族で保障してあげるなど、家族みんなで協力し支援することが大切です。

～調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました～

## ◎小学校

### 国語

◇目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように詳しく書く

意見を述べる文章を書くときは、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べる必要があります。読み手に考えがよく伝わるようにするために、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが重要です。その際は、具体的な事実を挙げて、読み手が納得できるようにわかりやすく述べるのが重要です。

◇修飾と被修飾との関係について理解する

修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要であることに気づくことができるようにすることが大切です。修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合があることを理解できるようにすることが大切であり、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかははっきりさせたりすることを指導すると効果的です。

#### ★各家庭での実践

家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図ることで、文章を読み解く力を育てましょう。

### 算数

◇図形の面積の求め方を理解するとともに、求める際に必要な情報を図形から選び出すことができるようにする

図形の面積の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを理解できるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、公式を用いる上で不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、求積のために必要な情報を選び出す活動が効果的です。

◇複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする

複数のデータについて項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにすることが重要です。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにすることが重要です。集めたデータを分析する際、データの種類や項目の数を考え、目的に応じて、これまでに学習してきた簡単な表や二次元の表、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフといった表現から適切なものを選択して表してみることで、データの特徴や傾向を捉え、結論について判断できるようにすることが大切です。

#### ★各家庭での実践

家での外出やお手伝いを通じて、速さや時刻を求めたり、面積の計算してみましよう。家庭学習の仕方について、家庭と学校の連携により、自分で課題を見付けられるよう内容の充実を図っていきましょう。

## ◎中学校

### 国語

◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

文学的な文章を読んで自分の考えを持つためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要があります。

その上で、改めて自分の文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切です。

◇相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う

言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要があります。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切です。

#### ★チェックポイント

・国語を学習する際には、言語に対する知的な認識を深めるだけでなく、言語に対する感覚を豊かなものにしていくことが大切です。そのためには、継続的な読書の時間などが必要です。また、国語科の学習は、他教科の学習に必要な「問題を読み解く力」を育むために大切ですので、学校における児童全体に関連させていくように工夫することが大切です。

### 数学

◇代表値を用いてデータの傾向を的確に読み取ることができるようにする

データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるように指導することが大切です。その際、目的に応じてデータ全体を表す指数としてふさわしい代表値を選択しそれを的確に求める活動を取り入れることが必要です。

データに基づいて不確定な事象を考察する場面において、目的に応じて収集したデータを度数分布表やヒストグラムに表してデータの分布を捉えた上で、どの代表値を用いるべきかを判断し、代表値を用いてデータの傾向を的確に読み取ることができるように指導することが大切です。

◇目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って批判的に考察することを通じて、統計的に問題解決することができるようにする

データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切であり、判断したこととその理由について説明する活動を取り入れることが考えられます。

日常生活や社会の事象を題材とした問題を取り上げ、統計的に解決することができるように指導することが大切です。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を批判的に考察し判断するという一連の活動を充実することが大切です。

#### ★チェックポイント

・日常生活の中でも問題の解決について話題にし、様々な情報からどんな情報が有効なのかを的確に読み取り、お互いの考えを話し合い判断することなどを実践しましょう。

## 質問紙調査の結果

小学生は、生活習慣・学習習慣、規範意識など全国平均を上回りましたが、算数への関心が全国平均を下回りました。  
中学生は生活習慣・学習習慣、自己有用感など全国平均を上回りましたが、数学への関心が全国平均を下回りました。

### ◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力と相関関係等を分析します。学力との相関については、  
①学習に対する興味・関心②規範意識・自己有用感③学習の基盤となる生活・学習習慣について調査が行われました。

### 町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、「いじめはどんな理由でもいけないこと」「友達と協力するのは楽しい」「ICT機器の使用頻度、意欲」について高い傾向にありました。  
中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「将来の夢や目標がある」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」などについて高い傾向にありました。

## 改善の方向性

○知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」のを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実させましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりと行う学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実させる。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探究する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させ、教科において記録、要約、説明などの学習に取り組むことで、学びに向かう力や人間性を養う。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・タブレット等を活用したICTによる授業を展開し、児童生徒一人ひとりが「個別最適」に学習できる環境をつくり、指導方法の充実を図る。
- ・地域の人材や加配教員の活用し、多様な指導者による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度に応じた、多様な指導の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実させましょう。

- ・保護者が学校での授業内容を尋ねるなど、家庭においても学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。
- ・勉強時間を決めて表示したり、テレビを消す時間を設けるなど、子どもが時間を意識した生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。
- ・毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

## 清水町教育研究所との連携

調査の結果を受けて、清水町教育研究所では十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいます。研究所の研究成果を参考に、各学校において日頃より実践研究に取り組むなど連携を図りながら、児童生徒の確かな学力の育成に努めます。